
ジョン ~杏の木の下で~

桐生星男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジョン～杏の木の下で～

【著者名】

桐生星男

N3520D

【あらすじ】

私がジョンと出会つてから別れるまでの話。

ジョンがいなくなつた。

私が三歳になつた日、仔犬のジョンが我が家にやつて來た。私が歩くと、ジョンは私のあとを一生懸命ついてきた。とてもうれしくてかわいくて、その夜私は、ジョンを腕の中に抱いて眠つた。小さなジョンはどんどん大きくなつた。私も大きくなつた。ジョンは散歩が好きだつた。ジョンはボール遊びが好きだつた。ジョンのお気に入りの場所は、庭の杏の木の下の風が気持ちよくて涼しいところ。

ジョンは私の気持ちをよく知つていた。悲しいときもうれしいときも。私たちはお互^{たが}い、何でも知つていた。

なのに、いなくなるなんて。大好きだつた、私の大切な、ジョン。

ジョンには苦手なものもあつた。雷^{かみなり}だ。私も雷は苦手だつたけれど、ジョンはもっと苦手だつた。遠くの方でゴロゴロ聞こえただけでも大騒ぎだつた。笑つてしまつくらいに。だから雷の日は特別に、私たちはジョンを、玄関の中へ入れてあげた。誰にだつて、どうしても嫌いなものつてあるものね。

それなのに。あの日、私は友達との電話に夢中で気が付かなかつた。雷が鳴つているのも、ジョンが鳴いでいるのも。ジョンは鎖を噛み切つて逃げだした。「めんね、めんね、ジョン。怖かつたんだよね。

私たちはジョンの名前を呼び続けた。声を張り上げて、雨の中を必死に。声が枯^かれてもまだ、ずっと遠くまで探した。だけどジョンは見つかなかつた。ジョンは死んでしまつたのかもしれない。ジ

ジョンは帰つてこないかもしれない。死なないで、帰つてきて、ねえ、
お願い、ジョン。

次の日の朝。泣き腫らした目でぼんやり外を見ていると、ジョン
がいた！ 雨で汚れているけれど、うれしそうな顔をして一生懸命
走つてくる。ああ、ジョン、帰つてくれてありがとう！ ジョ
ンは何度も何度も、私の顔にキスをした。私もジョンをぎゅっと抱
きしめた。ごめんね、ジョン。もう離はなさない、これからはずつと、
一緒に、ジョン。

あれから三年がたつた。ジョンはきっと幸せだったと思う。陽だ
まりが気持ち良かれる晴れた日の午後、ジョンは私の腕の中で眠
るよう死んだ。初めて出会った日の夜を私は思い出していた。涙
がぽとり、ぽとりと落ちた。ありがとう、ジョン。ありがとう、あ
りがとう、ジョン。あなたに会えて、幸せだったよ。

にわ あんず庭の杏の木の下の風が涼しいといろの下で、今でもジョンは眠つ
ている。いなくなつたんじゃなかつた。そうだよね。

ジョンは今でも私の心の中にいる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3520d/>

ジョン～杏の木の下で～

2010年12月7日03時42分発行